



PURIFY CLEANER

Safety Data Sheet

会社名

1. 化学品及び会社情報

化学物質名	PURIFY CLEANER
製造者	株式会社 ニンバス
住所	〒656-0502 兵庫県南あわじ市福良乙1288-21
TEL	0799-54-0935
供給者	株式会社 ニンバス
住所	〒656-0502 兵庫県南あわじ市福良乙1288-21
TEL	0799-54-0935
緊急連絡先	株式会社 ニンバス TEL: 0799-54-0935
作成日	2026年5月7日
改訂日	
管理番号	PRC- 07052026
推奨用途	一般工業用途
使用上の制限	上記以外の用途に使用する場合、使用前に専門家へ相談すること。

2. 危険有害性要約

GHS分類

物質又は混合物の分類 :

高圧ガス : 高圧液化ガス

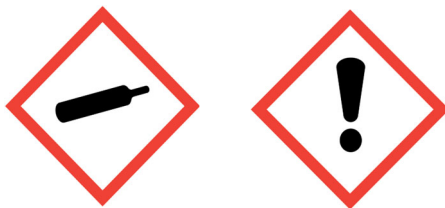
特定標的臓器毒性(単回暴露) : 区分3

区分3 : 麻酔作用

水生環境有害性 短期(急性) : 区分3

水生環境有害性 長期(慢性) : 区分3

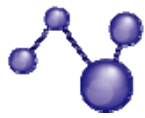
絵表示



注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 :

H280	高圧ガス;熱すると爆発のおそれ
H336	眠気又はめまいのおそれ (麻酔作用)
H402	水生生物に有害
H412	長期継続的影響によって水生生物に有害



注意書き(安全対策) :

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面などの個人用保護具を着用すること。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
本製品を使用する際、飲食、喫煙をしないこと。
屋外もしくはよく換気された場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
取扱い後には顔や手など、ばく露した箇所を洗うこと。

注意書き(応急措置)

ばく露した場合	医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で数分間洗うこと。コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は取り外し、その後も洗浄を続けること。ただちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	ただちに汚染された衣類を脱ぐこと。多量の水と洗剤で洗い流すこと。 皮膚刺激や炎症、発疹が生じた場合、医師に連絡すること。 汚染された衣類を再使用する場合、再使用前に洗濯すること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。意識が無い人には口から何も与えないこと。 ただちに日本中毒情報センター又は医師に連絡すること。 医師の指示が無い場合、無理に吐かせないこと。
吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい体勢で休息させること。 気分が優れない場合、医師に連絡すること。
注意書き(保管)	日光を避け、換気の良い冷暗所で保管すること。(保管温度: 40℃以下)
注意書き(廃棄)	内容物、容器の処理は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
その他	
ほかの危険有害性	エアゾール缶を廃棄する場合は、中身を使い切ってから火気のない屋外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜くこと。 火中に投入すると爆発のおそれがあるので、絶対に焼却しないこと。



3.組成及び成分情報

単一物質/混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名	含量	CAS No.	EC No.
(Z)-1-クロロ-2,3,3-トリフルオロプロペン	<10.00%	1263679-68-0	N/A
(E)-1-クロロ-2,3,3-トリフルオロプロペン	>89.00%	1263679-71-5	N/A
二酸化炭素(噴射剤)	5.00%	124-38-9	204-696-9
安定剤	<1.00%	-	-

別名 : -
英語名 : -
化学式 : -
官報公示整理番号
化審法 : (2)-4288 / (1)-169
安衛法 : 2-(13)-297 / 2-(13)-296

4.応急措置

ばく露した場合 医師に連絡すること。
眼に入った場合 水で数分間洗うこと。コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は取り外し、その後も洗浄を続けること。ただちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合 ただちに汚染された衣類を脱ぐこと。多量の水と洗剤で洗い流すこと。
皮膚刺激や炎症、発疹が生じた場合、医師に連絡すること。
汚染された衣類を再使用する場合、再使用前に洗濯すること。
飲み込んだ場合 口をすすぐこと。意識が無い人には口から何も与えないこと。
ただちに日本中毒情報センター又は医師に連絡すること。
医師の指示が無い場合、無理に吐かせないこと。
吸入した場合 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい体勢で休息させること。
気分が優れない場合、医師に連絡すること。
応急措置をする者の保護 個人用保護具を着用すること。

5.火災時の措置

消火剤 : 水噴霧、泡/粉末消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤 : 利用可能な情報はない
特有の消火方法 : 消火作業は風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。
関係者以外は安全な場所に退避させる。
周辺火災時、移動可能な容器は安全な場所に移す。
火災時の特有危険有害性 : 熱分解により、刺激性のある有毒なガスと蒸気を放出することがある。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
破裂した容器が飛翔するおそれがある。
消火を行う者の保護 : 個人用保護具を着用すること。自給式呼吸器および消火装備を着用すること。

6.漏出時の措置

- 人体に対する注意事項
- 保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 封じ込め・浄化方法・機材、回収・中和 : 乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸入させて、密閉可能な空容器に回収する。大量に流出した場合、漏出物の周囲を盛土で覆い、流出を防止する。危険でなければ容器の向きを変える(漏出部を上にする)などして漏れを止める。
- 二次災害の防止策 : 環境規制に従って、漏出箇所をよく洗浄する。付近の着火源、高温体などを速やかに取り除く。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 火気厳禁。高温物、火花及び強酸化剤など混触危険物質との接触を避けること。局所排気装置を使用すること。
- 注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所に手袋その他汚染された保護具を持ち込んではいない。取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 安全取扱注意事項 : 皮膚、眼、衣服との接触を避けること。個人用保護具を着用すること。付近の着火源、高温体などを速やかに取り除く。

保管

安全な保管条件

- 保管条件 : 日光を避け、換気の良い冷暗所で保管すること。(保管温度: 40℃以下)
- 安全な容器包装材料 : 法令の定めるところによる
- 混触危険物質 : 強酸化剤、強塩基、アルカリ金属類、アルカリ土類金属



8. 暴露防止及び保護措置

- 設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。
取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
- ばく露限界 : 設定されていない。
- 保護具
- 呼吸器用保護具 : 有機ガス用防毒マスク
- 手の保護具 : 化学防護手袋(ポリエチレン、ポリビニルアルコール製のものを推奨)
- 眼の保護具 : 側板付き保護眼鏡(必要に応じゴーグル型または全面保護眼鏡)
- 皮膚及び身体の保護具 : 耐化学薬品性の作業衣(必要に応じ保護長靴)
- 適切な衛生対策 : 産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱う。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

- 色 : 無色
- 性状 : エアゾール又は液体
- 臭い : 微かな特異臭
- 融点/凝固点 : -82.3℃
- 沸点又は初留点及び沸騰範囲 : 54℃
- 可燃性 : 該当しない
- 蒸発速度 : データなし
- 燃焼性(固体、ガス) : データなし
- 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界
- 上限 : 14% v/v (@60℃, ASTM E681)
- 下限 : 7% v/v (@60℃, ASTM E681)
- 引火点 : 引火点なし
- 自然発火点 : 446℃
- 分解温度 : データなし
- pH : データなし
- 粘度(粘性率) : データなし
- 動粘性率 : データなし
- 溶解性 : 易溶 : 水
- n-オクタノール/水分分配係数 : logPow=1.9
- 蒸気圧 : 33 kPa(25℃)
- 密度及び/又は相対密度 : 1.38 g/cm³
- 相対蒸気密度 : >1
- 粒子特性 : データなし



10.安定性及び反応性

安定性	反応性	: データなし
	化学的安定性	: 推奨保管条件下で安定。
危険有害反応可能性		: 通常の処理ではなし。
避けるべき条件		: 高温と直射日光、炎、火花、混触危険物質との接触
混触危険物質		: 強酸化剤、強塩基、アルカリ金属類、アルカリ土類金属
危険有害な分解生成物		: 一酸化炭素、二酸化炭素、フッ化水素、 ハロゲン化カルボニル、塩化水素

11.有害性情報

急性毒性		
化学名		: (Z)-1-クロロ-2,3,3-トリフルオロプロペン
経口	LD50	: >2,000mg/kg (Rat)
経皮	LD50	: 利用可能な情報はない
吸入	LC50	: 利用可能な情報はない
化学名		: (E)-1-クロロ-2,3,3-トリフルオロプロペン
経口	LD50	: >2,000mg/kg (Rat)
経皮	LD50	: 利用可能な情報はない
吸入	LC50	: 利用可能な情報はない
化学名		: 二酸化炭素(噴射剤)
経口	LD50	: 利用可能な情報はない
経皮	LD50	: 利用可能な情報はない
吸入	LC50	: 利用可能な情報はない
化学名		: 安定剤
経口	LD50	: >2,000mg/kg (Rat)
経皮	LD50	: >2,000mg/kg (Rat)
吸入	LC50	: 30mg/L (4h, Rat)
皮膚腐食性／皮膚刺激性		: 原料製造者提供の情報に基づく
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		: 原料製造者提供の情報に基づく
呼吸器感作性又は皮膚感作性		: 原料製造者提供の情報に基づく
生殖細胞変異原性		: 原料製造者提供の情報に基づく
発がん性		: 原料製造者提供の情報に基づく
生殖毒性		: 原料製造者提供の情報に基づく
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		: 原料製造者提供の情報に基づく
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		: 原料製造者提供の情報に基づく
誤えん有害性		: 原料製造者提供の情報に基づく

12.環境影響情報

生態毒性

化学名 : (Z)-1-クロロ-2,3,3,-トリフルオロプロペン

藻類/水生植物 EC50 : >82.5mg/L (72h, 藻、藻類成長阻害試験)

魚 LC50 : 110mg/L (96h)

甲殻類 EC50 : 39.7mg/L (ミジンコ、遊泳阻害試験)

化学名 : (E)-1-クロロ-2,3,3,-トリフルオロプロペン

藻類/水生植物 EC50 : >68mg/L (72h, 藻、藻類成長阻害試験)

魚 LC50 : 88.3mg/L (96h)

甲殻類 EC50 : 55.9mg/L (48h, ミジンコ、遊泳阻害試験)

化学名 : 二酸化炭素(噴射剤)

藻類/水生植物 EC50 : 利用可能な情報はない

魚 LC50 : 利用可能な情報はない

甲殻類 EC50 : 利用可能な情報はない

化学名 : 安定剤

藻類/水生植物 EC50 : 1.5mg/L (72h, 藻)

魚 LC50 : 0.58mg/L (96h, ニジマス)

甲殻類 EC50 : 0.45mg/L (ミジンコ)

その他のデータ : 利用可能な情報はない

残留性・分解性 : 難分解性

生体蓄積性 : 原料製造者提供の情報に基づく

土壤中の移動性 : 原料製造者提供の情報に基づく

オゾン層への有害性 : 原料製造者提供の情報に基づく

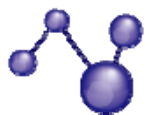
13.廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規則に則る必要がある。

汚染容器及び包装 : 廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規則に則る必要がある。

14.輸送上の注意

	ADR/RID(陸上)	IMDG(海上)	IATA(航空)
国連番号	1013	1013	1013
品名	Carbon Dioxide		
国連分類	2.2		
副次危険性	-		
容器等級			
海洋汚染物質	非該当		-
環境有害物質	-		非該当
MARPOL73/78やIBCコードに 則ったバルクの輸送	-	利用可能な情報はない	-



15.適用法令

- ・ 労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物 法第57条 第1項、施行令第18条 第2号 別表第2 政令番号 1463 二酸化炭素 (令和8年4月1日以降)
: 名称等を通知すべき危険物及び有害物 法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号 別表第2 政令番号 1463 二酸化炭素 (令和8年4月1日以降)
- ・ 道路法 : 車両の通行の制限
施行令第19条の13 第1項第2号 高压ガス
- ・ 航空法 : 高压ガス
- ・ 船舶安全法 : 高压ガス
- ・ 港則法 : その他の危険物・高压ガス
- ・ 高压ガス保安法 : 液化ガス 法第2条第3号 液化ガス

16.その他

引用文献および参照ホームページ等

NITE: 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 <http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>

IATA危険物規則書

RTECS: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances

中央労働災害防止協会 GHSモデルSDS情報

有機合成化学辞典 (社) 有機合成化学協会 講談社サイエンティフィック

化学大辞典 共立出版

原料製造者提供のSDS 等

記載内容の取扱い

- ・ このSDS、GHS分類はJIS Z 7253:2019に準拠しております。
- ・ このSDSに記載される情報は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、参考情報でありいかなる保証をするものではありません。
- ・ すべての化学品には未知の有害性等があり得ますので、取扱いには細心の注意が必要です。本製品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。
- ・ 記載事項は通常取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。
- ・ 製品の譲渡時にはSDS(MSDS)を添付して下さい。